

四半期報告書

(第37期第2四半期)

自 平成25年7月1日
至 平成25年9月30日

イマジニア株式会社

東京都新宿区西新宿二丁目7番1号

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	2

第2 事業の状況

1 事業等のリスク	2
2 経営上の重要な契約等	2
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況	
(1) 株式の総数等	4
(2) 新株予約権等の状況	4
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	4
(4) ライツプランの内容	4
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	4
(6) 大株主の状況	5
(7) 議決権の状況	6
2 役員の状況	6

第4 経理の状況

	7
--	---

1 四半期連結財務諸表	
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	9
四半期連結包括利益計算書	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
2 その他	14

第二部 提出会社の保証会社等の情報

	15
--	----

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年11月13日
【四半期会計期間】	第37期第2四半期（自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日）
【会社名】	イマジニア株式会社
【英訳名】	Imagineer Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長兼CEO 神藏 孝之
【本店の所在の場所】	東京都新宿区西新宿二丁目7番1号
【電話番号】	03（3343）8911（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役兼CFO 中根 昌幸
【最寄りの連絡場所】	東京都新宿区西新宿二丁目7番1号
【電話番号】	03（3343）8911（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役兼CFO 中根 昌幸
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第36期 第2四半期 連結累計期間	第37期 第2四半期 連結累計期間	第36期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年9月30日	自平成25年4月1日 至平成25年9月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高（千円）	2,047,759	1,537,153	3,689,179
経常利益（千円）	510,529	228,440	769,765
四半期（当期）純利益（千円）	343,769	154,965	511,706
四半期包括利益又は包括利益 （千円）	334,442	96,825	570,581
純資産額（千円）	7,939,712	8,061,666	8,079,977
総資産額（千円）	8,833,130	8,546,110	8,985,843
1株当たり四半期（当期）純利益 金額（円）	35.81	16.14	53.31
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額（円）	—	—	—
自己資本比率（％）	89.8	94.3	89.9
営業活動による キャッシュ・フロー（千円）	300,217	△219,807	857,145
投資活動による キャッシュ・フロー（千円）	19,936	△220,619	△931,701
財務活動による キャッシュ・フロー（千円）	△117,282	△116,812	△214,889
現金及び現金同等物の四半期末 （期末）残高（千円）	6,748,085	5,740,708	6,313,493

回次	第36期 第2四半期 連結会計期間	第37期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成24年7月1日 至平成24年9月30日	自平成25年7月1日 至平成25年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 （円）	32.44	4.73

- （注）1．当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2．売上高には、消費税等は含んでおりません。
- 3．潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社（イマジニア株式会社）、子会社3社及び関連会社1社により構成されております。主な事業内容としましては、モバイルコンテンツ事業、モバイルコマース事業、パッケージソフトウェア事業、投資教育事業となっております。

当第2四半期連結累計期間における、各セグメントに係る主な事業内容の変更と主要な関係会社の異動は、概ね次のとおりであります。

<モバイルコンテンツ事業>

主な事業内容及び主要な関係会社の異動はありません。

<モバイルコマース事業>

主な事業内容及び主要な関係会社の異動はありません。

<パッケージソフトウェア事業>

主な事業内容及び主要な関係会社の異動はありません。

<投資教育事業>

主な事業内容の変更はありません。

なお、平成25年4月1日付けで簡易分割を行いイマジニア・インベストメントエデュケーション株式会社を新設いたしました。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1）業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、各種政策の効果により緩やかに回復しつつあり、さらなる景気回復が期待されますが、世界経済の下振れによる影響が懸念されます。

当社グループの主力事業であるモバイルコンテンツ事業を取り巻く環境は、スマートフォンを中心とした携帯電話端末やタブレット端末などの普及により、音楽・映像・電子書籍等のコンテンツサービスが広がりを見せております。

このような環境下におきまして、主力であるモバイルコンテンツ事業の事業環境はフィーチャーフォンからスマートフォンへの移行が急速に進んでおります。当社グループもフィーチャーフォン向け有料サービスを中心としたビジネスから新たなビジネス構築が急務となっており、中期的な経営の方向性でもある「新たな成長へのチャレンジ」の実現に向けて取り組んでおります。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高1,537,153千円（前年同期比24.9%減）、営業利益218,052千円（前年同期比59.3%減）、経常利益228,440千円（前年同期比55.3%減）、四半期純利益154,965千円（前年同期比54.9%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

（モバイルコンテンツ事業）

モバイルコンテンツ事業におきましては、ビジネス環境が大きく変化する状況において、「a uスマートパス」「NTTドコモ スゴ得コンテンツ」等のキャリア主導サービスの提供の拡大、「LINE」等のメッセージサービスへの提供の拡大、ユーザー満足度の高いスマートフォン向けコンテンツの提供によるスマートフォン月額課金サービスの会員数増加などの取り組みによって、当該事業のビジネス範囲の拡大を図っております。

上記の結果、売上高1,134,097千円（前年同期比7.5%減）、セグメント利益446,557千円（前年同期比13.5%減）となりました。

（モバイルコマース事業）

モバイルコマース事業におきましては、デジタルコンテンツの連携を図り集客を強化することによって、スマートフォン向けのコマースビジネスの拡大に取り組んでおります。

また、ライセンス及びセールスプロモーションビジネスとしてライセンス提携先の拡充に、継続して取り組んでいます。

上記の結果、売上高255,552千円（前年同期比43.9%増）、セグメント利益5,291千円（前年同期は16,381千円のセグメント損失）となりました。

（パッケージソフトウェア事業）

パッケージソフトウェア事業におきましては、ニンテンドー3DS向けタイトルを下期に数タイトル発売すべく開発に取り組んでいます。

上記の結果、売上高8,936千円（前年同期比98.4%減）、セグメント損失134,895千円（前年同期は174,958千円のセグメント利益）となりました。

（投資教育事業）

投資教育事業におきましては、銀行及び証券会社が投資信託を販売するための支援ツールである投資信託提案支援システムの銀行及び証券会社の導入先の拡大に取り組んでいます。また、タブレット版の開発にも取り組んでいます。

上記の結果、売上高138,586千円（前年同期比38.1%増）、セグメント利益23,781千円（前年同期は9,956千円のセグメント損失）となりました。

（2）キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」）は、5,740,708千円と前連結会計年度末より572,785千円の減少となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況及びこれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は219,807千円（前年同期は300,217千円の資金増加）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益298,863千円及び売上債権の減少103,190千円の増加要因があったものの、未払金の減少105,267千円及び法人税等の支払額303,158千円の減少要因があったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は220,619千円（前年同期は19,936千円の資金増加）となりました。これは主に、投資有価証券の売却及び償還による収入2,588,598千円の増加要因があったものの、投資有価証券の取得による支出2,800,130千円の減少要因があったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は116,812千円（前年同期は117,282千円の資金減少）となりました。これは主に、配当金の支払額114,536千円によるものであります。

（3）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

（4）研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループ全体の研究開発活動の金額は115,472千円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	47,480,000
計	47,480,000

②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数（株） （平成25年9月30日）	提出日現在発行数（株） （平成25年11月13日）	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	10,649,000	10,649,000	東京証券取引所 JASDAQ （スタンダード）	単元株式数100株
計	10,649,000	10,649,000	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 （千株）	発行済株式総 数残高 （千株）	資本金増減額 （千円）	資本金残高 （千円）	資本準備金増 減額（千円）	資本準備金残 高（千円）
平成25年7月1日～ 平成25年9月30日	—	10,649	—	2,669,000	—	667,250

(6) 【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
I I B株式会社	東京都渋谷区大山町34-17	4,200	39.4
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	420	3.9
神藏 孝之	東京都渋谷区	303	2.8
アールビーシー アイエスティ ロンドン クライアント アカ운트 (常任代理人シティバンク銀行株式会社)	7TH FLOOR, 155 WELLINGTON STREET WEST TORONTO, ONTARIO, CANADA, M5V 3L3 (東京都品川区東品川2丁目3-14)	278	2.6
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	250	2.3
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1丁目2-10	158	1.5
NOMURA PB NOMINEES LIMITED OMNIBUS-MARGIN (CASHPB) (常任代理人野村證券株式会社)	1 ANGEL LANE, LONDON, EC4R 3AB, UNITED KINGDOM (東京都中央区日本橋1丁目9-1)	153	1.4
バンク オブ ニューヨーク ジー シーエム クライアント アカ운트 ジェイピーアールデイ アイエ スジー エフイー-エイシー (常任代理人株式会社三菱東京 UFJ銀行)	PETERBOROUGH COURT 133 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB UNITED KINGDOM (東京都千代田区丸の内2丁目7-1)	93	0.9
中根 昌幸	東京都杉並区	90	0.8
澄岡 和憲	東京都中央区	67	0.6
計	—	6,016	56.5

(注) 1. 上記のほか当社所有の自己株式1,051千株(9.9%)があります。

2. 上記、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は420千株であります。なお、それらの内訳は、投資信託設定分287千株、管理有価証券信託分133千株となっております。

3. 上記、資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は250千株であります。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成25年 9 月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 1, 051, 300	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 9, 595, 500	95, 955	—
単元未満株式	普通株式 2, 200	—	—
発行済株式総数	10, 649, 000	—	—
総株主の議決権	—	95, 955	—

② 【自己株式等】

平成25年 9 月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
イマジニア株式会社	東京都新宿区 西新宿二丁目 7 番 1 号	1, 051, 300	—	1, 051, 300	9. 9
計	—	1, 051, 300	—	1, 051, 300	9. 9

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、東陽監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年 3 月31日)	当第 2 四半期連結会計期間 (平成25年 9 月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6, 293, 493	5, 721, 708
売掛金	654, 518	605, 528
有価証券	74, 261	75, 233
商品及び製品	17, 891	21, 171
仕掛品	1, 244	22, 043
原材料及び貯蔵品	12	12
その他	159, 044	161, 256
貸倒引当金	△15, 155	△17, 821
流動資産合計	7, 185, 310	6, 589, 132
固定資産		
有形固定資産	79, 295	70, 576
無形固定資産	50, 965	44, 740
投資その他の資産		
投資有価証券	1, 350, 470	1, 549, 042
その他	343, 560	312, 777
貸倒引当金	△23, 759	△20, 159
投資その他の資産合計	1, 670, 272	1, 841, 660
固定資産合計	1, 800, 532	1, 956, 977
資産合計	8, 985, 843	8, 546, 110
負債の部		
流動負債		
買掛金	60, 882	40, 126
営業未払金	313, 601	229, 367
未払法人税等	293, 987	84, 825
賞与引当金	—	9, 000
その他	237, 395	121, 125
流動負債合計	905, 865	484, 444
負債合計	905, 865	484, 444
純資産の部		
株主資本		
資本金	2, 669, 000	2, 669, 000
資本剰余金	2, 466, 023	2, 466, 023
利益剰余金	3, 549, 527	3, 589, 320
自己株式	△622, 299	△622, 323
株主資本合計	8, 062, 250	8, 102, 019
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	13, 500	△44, 638
その他の包括利益累計額合計	13, 500	△44, 638
新株予約権	4, 226	4, 286
純資産合計	8, 079, 977	8, 061, 666
負債純資産合計	8, 985, 843	8, 546, 110

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
売上高	2,047,759	1,537,153
売上原価	803,665	694,160
売上総利益	1,244,094	842,992
販売費及び一般管理費	※ 708,814	※ 624,940
営業利益	535,279	218,052
営業外収益		
受取配当金	46	8,109
投資事業組合運用益	—	15,509
貸倒引当金戻入額	3,600	3,600
還付加算金	1,720	—
その他	1,281	1,665
営業外収益合計	6,648	28,884
営業外費用		
投資事業組合運用損	3,064	—
為替差損	20,959	15,902
持分法による投資損失	7,373	2,583
その他	—	11
営業外費用合計	31,398	18,497
経常利益	510,529	228,440
特別利益		
投資有価証券売却益	—	208,016
固定資産売却益	20,000	—
負ののれん発生益	—	5,002
受取和解金	62,535	—
特別利益合計	82,535	213,018
特別損失		
投資有価証券評価損	9,998	—
投資有価証券売却損	—	142,595
その他	269	—
特別損失合計	10,268	142,595
税金等調整前四半期純利益	582,796	298,863
法人税、住民税及び事業税	206,839	89,632
法人税等調整額	32,188	54,265
法人税等合計	239,027	143,898
少数株主損益調整前四半期純利益	343,769	154,965
四半期純利益	343,769	154,965

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	343,769	154,965
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△9,326	△58,139
その他の包括利益合計	△9,326	△58,139
四半期包括利益	334,442	96,825
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	334,442	96,825
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	582,796	298,863
減価償却費	18,021	15,513
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	5,868	△934
賞与引当金の増減額 (△は減少)	7,500	9,000
受取利息及び受取配当金	△545	△8,639
為替差損益 (△は益)	20,885	15,546
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△65,420
投資事業組合運用損益 (△は益)	3,064	△15,509
固定資産除売却損益 (△は益)	△19,730	—
持分法による投資損益 (△は益)	7,373	2,583
負ののれん発生益	—	△5,002
売上債権の増減額 (△は増加)	△425,928	103,190
たな卸資産の増減額 (△は増加)	720	△23,134
仕入債務の増減額 (△は減少)	165,354	△24,676
営業未払金の増減額 (△は減少)	△129,474	△84,233
未払金の増減額 (△は減少)	32,672	△105,267
その他	36,969	△37,383
小計	305,546	74,496
利息及び配当金の受取額	611	8,690
法人税等の還付額	54,094	163
法人税等の支払額	△60,034	△303,158
営業活動によるキャッシュ・フロー	300,217	△219,807
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	—	△2,800,130
投資有価証券の売却及び償還による収入	14,592	2,588,598
無形固定資産の売却による収入	20,000	—
その他	△14,655	△9,087
投資活動によるキャッシュ・フロー	19,936	△220,619
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△115,014	△114,536
その他	△2,268	△2,275
財務活動によるキャッシュ・フロー	△117,282	△116,812
現金及び現金同等物に係る換算差額	△20,885	△15,546
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	181,986	△572,785
現金及び現金同等物の期首残高	6,566,098	6,313,493
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 6,748,085	※ 5,740,708

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、イマジニア・インベストメントエデュケーション株式会社を新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(四半期連結損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
賞与引当金繰入額	7,500千円	9,000千円
支払手数料	168,826	132,512
貸倒引当金繰入額	9,468	2,665

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
現金及び預金勘定	6,748,085千円	5,721,708千円
その他(コールローン)	—	19,000
現金及び現金同等物	6,748,085	5,740,708

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月11日 取締役会	普通株式	115,173	12	平成24年3月31日	平成24年6月12日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間
末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年10月31日 取締役会	普通株式	95,977	10	平成24年9月30日	平成24年12月3日	利益剰余金

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日）

1. 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年5月10日 取締役会	普通株式	115,172	12	平成25年3月31日	平成25年6月11日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間
末後となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年10月31日 取締役会	普通株式	95,976	10	平成25年9月30日	平成25年12月2日	利益剰余金

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

Ⅰ 前第2四半期連結累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	モバイル コンテンツ 事業 （千円）	モバイル コマー ス事業 （千円）	パッケージ ソフト ウェア事業 （千円）	投資教育 事業 （千円）	計 （千円）	調整額 （千円） （注）1	四半期連結 損益計算書 計上額 （千円） （注）2
売上高							
外部顧客への売上高	1,225,514	177,550	544,369	100,325	2,047,759	—	2,047,759
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	249	—	249	(249)	—
計	1,225,514	177,550	544,619	100,325	2,048,009	(249)	2,047,759
セグメント利益 （又は損失）	516,341	(16,381)	174,958	(9,956)	664,962	(129,682)	535,279

（注）1. セグメント利益（又は損失）の調整額は、セグメント間取引消去696千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△130,379千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等にかかる費用であります。

2. セグメント利益（又は損失）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	モバイル コンテンツ 事業 (千円)	モバイル コマース 事業 (千円)	パッケージ ソフト ウェア事業 (千円)	投資教育 事業 (千円)	計 (千円)	調整額 (千円) (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (千円) (注) 2
売上高							
外部顧客への売上高	1,134,097	255,552	8,916	138,586	1,537,153	—	1,537,153
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	19	—	19	(19)	—
計	1,134,097	255,552	8,936	138,586	1,537,173	(19)	1,537,153
セグメント利益 (又は損失)	446,557	5,291	(134,895)	23,781	340,734	(122,682)	218,052

(注) 1. セグメント利益（又は損失）の調整額は、セグメント間取引消去1,026千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△123,708千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等にかかる費用であります。

2. セグメント利益（又は損失）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

記載すべき重要な事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	35円81銭	16円14銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額（千円）	343,769	154,965
普通株主に帰属しない金額（千円）	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額（千円）	343,769	154,965
普通株式の期中平均株式数（千株）	9,597	9,597
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成25年10月31日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の金額・・・・・・・・95百万円

(ロ) 1株当たりの金額・・・・・・・・10円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日・・・・平成25年12月2日

(注) 平成25年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月13日

イマジニア株式会社

取締役会 御中

東陽監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 小林 伸行 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 小林 弥 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているイマジニア株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、イマジニア株式会社及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。